

令和2年度 授業改善推進プラン 3年

校内研究部

	児童の実態・課題分析	具体的な改善策	改善プランの評価	
国語	・物語文や説明文を問わず、文章に親しむことができる。しかし詳細な読み取りや、読解に必要な言語理解に個人差が大きい。	・言語に関する授業では、国語辞書などを活用し、学習した言葉などは日常的に活用する。 ・文章の読み取りの授業では、全体の文章構造や内容の理解がしやすいように教材を視覚化する。		
社会	・身近な地域の特色や様子についての興味関心は高くもてる。しかし問題や課題を解決するための情報を具体的資料から見つけ出すことができない。	・写真や絵、映像等を活用し、用語と体験を結び付ける。 ・板書など全体で確認させるものは、文字だけでなく、写真や短冊などで操作をしながら理解を深める。		
算数	・基本的な計算技能は習得できている。しかし、児童によって理解に差が大きい。特に問題文から演算を決定することに課題がある。 ・課題を解決するまで、既習事項を活用して解決することが難しい。	・視覚的な教材を活用するとともに、具体的な操作活動を取り入れながら、数の概念の理解を深める。 ・既習事項の確認を授業の導入で行い、解決の手段になることをおさえる。		
理科	・興味関心をもって課題解決をする姿が見られる。しかし自然の事象からの気づきから問題を見出すことが難しい児童がいる。	・一人一人の気づきを全体で共有し、問題を見いだすことをくり返すことで、自ら問題を見いだすことができるようにする。		
生活				
音楽	・基礎的・基本的な音楽表現の技能を身に付けている児童が多い。一方で、低学年での既習事項を定着させられていない児童もいる。	・体を動かす活動などを取り入れ、拍にのって演奏する感覚を養っていく。また、実態に応じて教材の難度を調整し、課題を確実に達成させる。		
図画工作	・意欲的に取り組む児童が多いが、筆使い、絵の輪郭線などが思ったように描けない児童がいる。	・見本や資料を用意し、自分のイメージに合った絵を描けるようにする。クレパスや絵の具の使い方などの図工の基礎を繰り返し指導していく。		
家庭				
体育	・運動の積み重ねが少なく基礎感覚が身に付いていない児童がいる。	・準備運動や補助運動などで、体づくりの運動を取り入れる。基礎的基本的な運動感覚を身に付けさせ、遊びの楽しさに触れさせる。		
外国語				